

## 8 : 競技情報

### 【1】地図

- ・地図は、クラシック・リレーともに、縮尺は1:15,000、等高線間隔5m、通行可能度4段階表示で描かれている。
- ・OCADによるコンピュータ作図である。
- ・地図表記は1990年改定IOFの「International Specification for Orienteering Maps (オリエンテーリング地図に関する国際規定)」に従っている。
- ・上記規定の中には地図ごとに定義を定め、これを凡例に示すことで使用が認められている特徴物がある。この規定にしたがって以下のように記号を定める。
  - 緑の ...独立樹
  - 黒の ...炭焼き釜跡
  - 黒の × ...ほこら・石碑・その他人工的な特徴物
- ・上記規定に従わない特殊表記は以下の通りである。
  - 黒の ...堰
- ・その他表記に関してはモデルイベントの地図凡例を参照のこと。ただし、一部不十分・不相当であるため、開会式後の代表者ミーティングにて、正しい凡例の配布を行う。この凡例では特に面状特徴物とその植生状態の表記に注意されたい。
- ・競技に使用する地図は、水分や損傷に耐えられるよう加工されているが、不安のある選手は各自で用意した袋に入れるなどして対処してもよい。

### 【2】トレインの概要

#### 1) クラシック

トレインは、比較的なだらかな尾根と浸食された急斜面の沢からなっている。トレイン内での標高差は大きい。植生は全体的に針葉樹林が広範囲を占めており、走行可能度はおおむねよい。トレイン内には道や小道、小径が比較的多く見られる。また、民家や耕作地が存在するが、ほぼ限られた地域のみに見られる。トレイン内における通行可能度の割合(A:B:C:D)は、およそ14:4:1:1程度である。

#### 2) リレー

トレインは、急峻な尾根沢の斜面、平らな台地状の地形、水系に侵食された微地形と変化に富んでいる。植生は整備された針葉樹がほとんどを占め、概ね走行可能である。一部のクラスでは水系を渡る個所がいくつかあり、注意が必要である。民家、耕作地等の立ち入り禁止区域は全体の2割程度である。トレイン内における通行可能度の割合(A:B:C:D)は、およそ20:2:2:1程度である。

### 【3】コース距離・登距離

次のとおりであるが、変更もありうる。

#### <クラシック>

|    | コース距離(m)      | 登距離(m) |
|----|---------------|--------|
| WE | 7,800         | 240    |
| ME | 11,800        | 490    |
| WA | 5,100         |        |
| MA | 7,200 ~ 7,300 |        |
| WF | 4,600         |        |
| MF | 5,500         |        |
| WB | 3,900         |        |
| MB | 4,500         |        |

#### <リレー(1走者あたり)>

|    | コース距離(m)      | 登距離(m)    |
|----|---------------|-----------|
| WE | 4,900 ~ 5,400 | 150 ~ 180 |
| ME | 7,800 ~ 8,100 | 345 ~ 395 |
| WU | 3,750 ~ 4,050 |           |
| MU | 5,500 ~ 5,700 |           |
| XU | 3,700         |           |
| WS | 3,700         |           |
| MS | 5,700         |           |

## 【4】テレイン・コースに関する情報

- ・テレイン内の一部に雪が積もっている可能性がある。
- ・テレイン内にはサル対策として畑などの周囲に電流の流れた柵が存在するので、触れないように十分注意すること。
- ・競技エリアに一部舗装道路が存在するが、スパイクシューズなどを使用しても不利になることはない。

## 【5】e-card（選手権の部）

### 1）電子パンチングシステムの概要

- ・本大会では、EMIT社製の電子パンチングシステム(Electronic Punching System)を使用する。競技者が手に持って走るタグのことをe-cardという。
- ・e-cardはスタート用のユニット(スタートユニット)にはめ込むことではじめて動作を始める。(この動作をアクティベートと呼ぶ)
- ・スタートユニットには赤く光るランプが付いており、e-cardをはめ込んだ時にe-cardが正常に動作している場合に赤く光る。
- ・コントロールにおいて記印を行うためのユニットをコントロールユニットと呼び、コントロールユニットにアクティベートしたe-cardをはめ込むことで、コントロールユニットの固有の番号をe-cardが読み取り、e-cardが記録する。
- ・また、e-cardには時計が内蔵されており、アクティベートと同時に計時を開始し、コントロールユニットで固有の番号と同時に、時間も記録される。
- ・これらの記録されたデータをゴール後に読み取り、失格判定を行う。
- ・e-cardは機械であるため途中で故障する可能性がある。故障しても失格判定を行えるように、e-cardにはバックアップラベルが付いている。
- ・バックアップラベルはコントロールユニットにきちんとはめ込んだ場合に、従来のコントロールカードと同様に穴が空くような構造となっている。(ただし、穴は1点、位置によってどのコントロールが判別する)

### 2）e-card 使用上の注意点

- ・e-cardは競技当日に配布する
- ・e-cardの加工、書き込みなどは認めない。このためコントロール位置説明表を携帯したい場合は、ビニール袋、コントロールカードケース等を利用してもよい。
- ・アクティベートを行っていない場合、一切の記印が記録されないため万全を期して、本大会ではアクティベートを2回行う。
- ・e-cardが適切に働いていなかった場合はバックアップラベルでコントロールの通過を確認するのでバックアップラベルも紛失しないように十分注意すること。
- ・バックアップラベルを紛失しても失格とはしない。
- ・バックアップラベルにも記印を行うために、e-cardをコントロールユニットにきちんとはめ込むこと。
- ・スタートユニットにはめ込むと、以前の記録は消去されるため、競技開始後は決してスタートユニットに近づけないこと。
- ・本大会ではe-cardは計時を行うものではなく、あくまで従来のコントロールカードと同様にコントロールの通過証明に使うものである。

### 3）コントロールで間違った記印をした場合の対処方法

- ・同じ番号のコントロールで続けて2回以上パンチした場合は最初のパンチのみが記録される。パンチに不安がある場合は2回以上パンチしても問題はない。
- ・途中で間違ったコントロールのパンチが記録されていても正しい順番で回ったことが確認できれば完走と認める。したがって、間違ったコントロールでパンチした場合でもそのまま正しいコントロールに行き行ってパンチすればよい。

【例1】 7 - 8 - 9と行くべきところ、8をとばして9をパンチした場合

そのまま8に戻ってパンチをし、再び9をパンチする。

【例2】 7の次に8に行くべきところを他のクラスのコントロールXでパンチした場合

そのまま8に行き行ってパンチをする。

## 【6】コントロールカード（一般の部）

### 1) コントロールカード

- ・コントロールカードは競技前日に配布する。ただし、スプリントクラス、リレー混成チームのコントロールカードは競技当日に配布する。
- ・コントロールカードの補強は記印欄、名前、スタート時刻等の記入欄にかからないようにすること。
- ・コントロールカードへの書き込みは表面の記印欄のみに認める。記印の判読に支障をきたす場合があるので裏面には何も書かないこと。
- ・コントロールカードケースにコントロールカードを入れて使用する場合はゴールにおいてコントロールカードと同時にコントロールカードケースを回収する。
- ・出走前にコントロールカードを紛失した場合はクラシック・リレーともに本部で再発行する。ただし、再発行には時間がかかることもあるので正規の時刻にスタートできない場合がある。
- ・選手はコントロールを指定された順番に回り、各コントロールに用意された器具を用いてコントロールカードに所定の欄にはっきりと記印すること。

### 2) コントロールで間違った記印をした場合の対処方法

- ・基本的対処方法はリザーブ欄（R1～R3の欄）を使用し、その次のコントロールからは正しい欄に正しい順番で記印する。

#### **【例1】 同じ欄に二重に記印した場合**

二重に記印した時点でリザーブ欄に正しく記印する。

#### **【例2】 欄をとばし記印してしまった場合**

使用してしまった欄はそのままにし、その欄に対応するコントロールではリザーブ欄に記印する。

#### **【例3】 間違ったコントロールで記印した場合**

正しいコントロールでリザーブ欄に記印する。

#### **【例4】 欄からはみ出して記印した場合**

リザーブ欄に記印しなおす。

## 【7】救護所・給水コントロール

- ・クラシック競技当日はテレイン内に救護所を設け、最小限の応急手当を行うことができる。各自で手当てをした場合でも支障がなければ競技を続けることができる。
- ・クラシック・リレーともにゴール地区内（本部テント付近）に救護所を設ける。
- ・救護所には飲料水を用意する。
- ・クラシック選手権の部では給水コントロールを設ける。給水コントロールでは飲料水を用意する。給水はセルフサービスとなる。
- ・競技を棄権する場合でも必ずゴールにe-card・コントロールカード・地図を提出すること。これが不可能な場合は救護所等で大会役員にe-card・コントロールカード・地図を提出すること。
- ・競技中に怪我人を発見した場合は速やかに救護所、ゴール等の最寄りの役員に連絡すること。
- ・すべての競技者・チームオフィシャルは競技より優先される不慮の事故が生じた場合は最寄りの大会役員または大会本部に連絡すること。

## 【8】調査依頼・提訴

### 1) 調査依頼

- ・クラシック・リレーとも、本部にて調査依頼の受付を行う。
- ・調査依頼の用紙は主管者側で用意する。
- ・回答は、本部テント横の公式掲示板に掲示する。
- ・成績速報に関する調査依頼は、ゴール閉鎖後1時間以内に行うこと。
- ・調査依頼には主管者が回答する。調査依頼の回答に疑義がある場合のみ、提訴を受け付ける。

### 2) 提訴

- ・クラシック・リレーとも、選手権の部または大会全体に関するインカレ実施規則に対する違反について、主管者の回答に疑義がある場合は提訴を行うことができる。提訴は裁定委員会に対して文章で行う。
- ・提訴に対する裁定委員会の判断は最終的なものである。関係者に通知されるほか、大会報告書にて報告される。

## 【9】テープ誘導の色一覧

・競技で使用するテープの色を以下にまとめる。

### クラシック

#### 選手権の部

スタート待機所

黄色

スタート地区

赤白色

スタートフラッグ

赤白色-誘導区間

最終コントロール

赤白色

ゴール

#### 一般の部

競技会場

緑色

スタート地区

青白色

スタートフラッグ

最終コントロール

青白色

ゴール

### リレー

#### 選手権の部

スタート・ゴール地区

赤白色

地図置き場

赤白色

スタートフラッグ

最終コントロール

赤白色

ゴール

#### 一般の部

#### スプリントクラス

最終コントロール

青白色

ゴール